

決算審査特別委員会報告

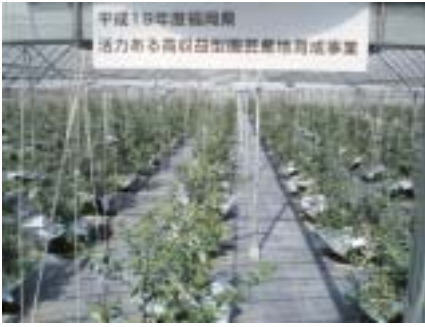
平成19年度決算の認定議案（認定第1号から第7号）が市長から議会に提案されました。

議会では、全議員（20名）で構成する決算審査特別委員会を設置し、9月4日、5日及び8日の3日間で審査を行いました。主な審査内容を一部報告します。

活力ある高収益型園芸産地育成事業について

問：事業をした結果はどんなっているのか。

答：結果がすぐに出るものとはないものがある。19年度は5名が事業をしており、目標の90％〜100％の実績を上げている。



▲ブルーベリー栽培

滞納整理指導員について

問：指導員導入の効果は上がっているのか。

答：19年4月から収納課新任職員へ差押えの個別指導を行い、5月にはその職員が差押えを行った。差押え件数も18年度222件が19年度では259件と伸びており指導の効果も上がっている。

農業委員会について

問：農地の不耕作地や遊休農地の実態はどんなっているのか。

答：18年度33件、7万5千㎡、19年度37件、7万8千㎡となっており、高齢化が進む中、耕作放棄地は増加している。

ブランドクロス広域連携企業誘致部会について

問：企業誘致部会の活動と効果について

答：小郡市、久留米市、鳥栖市、基山町の3市1町と福岡市が共同で企業誘致に取り組むため部会を設置している。19年度は、パンフレット作成や、東京で企業誘致セミナーを開催し、小郡市のPRができた。

道路管理について

問：ガードレールが邪魔で草刈がしにくい箇所がある。何か対策はないのか。

答：雑草が生えないよう道路法面にコンクリートを張ることも検討している。

道路整備事業について

問：大保・今隈10号線の用地買収の進捗状況について。

答：19年度当初は4件の未同意があつたが、年度中に1件の同意を得て、今年度さらに1件の同意を得た。残り2件は、買収に向け努力していきたい。

市営住宅について

問：家賃滞納の状況と取り組みについて。

答：19年度収納率97.0％、滞納者は20名、滞納額は103万3千円。年4回の戸別訪問による滞納整理を行い、それでも滞る人には返済計画書の提出を求めている。

下水道事業特別会計資金不足比率について

問：余剰金があり資金不足比率は発生していないが、一般会計からの繰入金が増えているのか。

24.1％ある。実質は赤字と報告書には表現すべきではないか。

答：繰入金が多ければ不足比率は発生しないが、今後は実際の収支を提示しながら報告したい。

コンピュータ教育費について

問：教員1・8人に1台のパソコン整備を行ったが、利用法と今後の整備について。

答：事務や成績付けだけでなく、教室に持ち込み教員が作った教材等をテレビにつなぎ授業するなどの活用をしている。将来は、1人1台を考えている。

美鈴が丘地区内行政ゾーン用地について

問：取得した土地の利用について、今後の計画はあるのか。

答：以前から図書館や市役所支所等、地元からの要望もあるが、現在決まった使用目的はない。売却ができるかも含め検討し、できるだけ早く結論を出したい。

甘木鉄道運営について

問：レールバスの利用状況はどんなっているのか。

答：18年度の災害で利用者数は対17年度比90％まで落ち込んだが、19年度は96％まで回復、運輸収入も85％まで落ち込んだが、19年度は92％に回復した。



▲宝満川を渡るレールバス

財政状況について

問：借金（市債残高）は前年度比で減っているが、貯金（基金）も極端に減っている。先行きどうなるのか。

答：基金が大きく減ったのは、美鈴が丘地区内行政ゾーン用地取得に充てたことが大きな要因。19年度市債残高は一般会計で223億円ある。今後は、残高を毎年10億円減額し、23年度には190億円以下にする計画である。